



諸遊壊司 議員

問

大山診療所は平成16年に建設され、債務残高が平成43年度まで元利合わせて約6億5000万円残っている。平成18年度以降は、赤字経営となっている。地域医療を守るためならば、

ある程度の赤字はやむをえないと思うが、2階の入院病棟の19床が現在休止中である。1人の固定医の確保も困難な状況の中、将来も入院病棟の活用は無理だと思う。

答

森田町長

医師を常駐させなくてもよい介護施設、例えば地域密着の小規模多機能型施設を、指定管理方式で導入されたらどうか。



使用されていない大山診療所2階病棟

平成43年度まで、平均3000万円の償還を続けなければならぬ大変厳しい経営環境にある。昨年6月から、固定医が不在となり、芦田医師、菅医師、鳥大医学部の支援をいただき何とか変則的な日程で外来診療を継続している。固定医確保の見通しがつかない中で、2階の利活用を進める事は難しい。町民にたいへん申し訳ないと思っている。引き続き医師確保対策に全力をあげて取り組む。

大山診療所

の今後は

町長

2階の活用は難しい

問

山香荘のリニューアルは

町長

まだ検討の段階

2月の全員協議会で県サッカー協会から出された山香荘施設改修による利用計画書が発表された。事業概要はバブル期のような計画で不安を感じる。

①箱物を造ることに、町民から公約違反ではないか、残念だという声を聞くがどうか。
②建設から約30年が経過し、山香荘自体も古くなっているが、改修する考えはあるのか。

③計画通りリニューアルした場合、町財政はどのくらい豊かになるか。
④積原駐車場など、他の候補地はないか。
⑤県サッカー協会からの補助金や、交付金があるとは、いえ、結局は町民の血税が使われる。この施設が町民のためになるのか。

答

森田町長

①そういう声もあることを実感した。
②現時点では考えていない。必要性の検討は行う。
③指定管理が現在より安く委託できるかもしれない。
④土地所有者が県であり、大山スキー場の運営に支障をきたす。この施設は活性化につながる。

このほか、成人式の充実に向けた質問もした。



山香荘のグラウンド